埼玉県消防学校

第１５０期救急科を実施しました

［期　　間］　令和５年６月９日（金）から７月２７日（木）まで

３４日間

［会　　場］　埼玉県消防学校

所属消防本部（局）

［到達目標］　救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な観察・判断能力、応急処置に必要な専門的技能を修得し、救急隊員として活動できる。

［教育対象］　救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

［修 了 者］　２５消防本部（局）８８名

平均年齢２４．８歳

埼玉県南西部消防局　　北島　素子　消防司令補　＊第１小隊総代

修了しての感想

「たった３４日間で救急の第１線に出て活動できるのだろうか、、、。」と不安がありましたが、学校とは受けるだけの場ではなく、気付きを与えてもらえる教育の場であることを再認識させて頂くことができました。

県内各地において救急業務の第１線でご活躍されている救命士の方々が業務多忙のなか、惜しむことなく私たち学生のために指導して下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。ここで学んだことを基に、これからも自身の知識・技術をアップデートしながら研鑽を重ねていきたいと思います。　　全ては７３３万県民のために、、、。

後輩へのメッセージ

私たちの業務は、全てにおいて一瞬一瞬が真剣勝負です。入校のきっかけやタイミングは人それぞれですが、救急科で学ぶことにより、新たな可能性とチャンスが広がると思います。

また、ご覧いただいている全ての消防職員にお伝えしたい事があります。それは「学ぶのに遅いという事はない」ということです。私たちの日々の努力は、市民・県民の笑顔へと繋がっていきます。自身の成長していく姿を楽しみに学んでほしいと思います。

春日部市消防本部　　脇坂　晴樹　消防士長　＊第２小隊総代

修了しての感想

３４日間という短い期間でしたが、８８名全員が誰ひとり欠けることなく無事に修了できたことに感謝致します。恵まれた訓練環境の中、救急の知識、資機材取り扱い、傷病者の接し方などたくさんのことを学ばせて頂き充実した日々を過ごすことができました。不安だらけでの入校でしたが、教官方からの優しいご指導、仲間と支えあえたお蔭で少しずつ自信をつけることができました。

救急の知識は、消防業務において必要不可欠であり、とても重要です。救急科を修了した後も、学ぶ姿勢と熱い気持ちを持ち続けることが大事だと思います。私たち隊員は現場を選べませんが、傷病者も救急隊を選ぶことはできません。自分たちの活動に後悔がないようここで培った知識を活かし、傷病者、家族に感謝させるそんな隊員を目指して精進して参りたいと思います。

後輩へのメッセージ

救急科では１日１日を大事にしてください。入校する前は長いと感じていた２ヵ月間も始まると本当にあっという間です。不安な気持ちもあるとは思いますが、教官方が丁寧にわかりやすい指導をしてくださるので安心してください。疑問に思ったこと、わからないことは勇気を出して聞きましょう。現場での失敗は許されませんが、救急科ではたくさん失敗して

ください。全力でぶつかってください。その学ぶ姿勢が傷病者のため、自分のために必ずなります。入校前の事前学習も怠らないでください。全ては傷病者のためです。そして、救急科で出会った仲間を大切にし、支え合いながら悔いのない期間を過ごして頂ければと思います。

川口市消防局　　大野　恭佑　消防士長　＊第１小隊副総代

修了しての感想

救急業務における多くの知識と技術を座学・実技にて学ぶことができ、大変感謝しております。これも、各消防本部からの講師、教官方のおかげです。座学での膨大な情報量に不安も感じましたが、わかりやすく解説していただき、その知識が実技に結び付く楽しさと喜びを知ることができました。

消防行政において、救急事案は市民から一番需要があることは数字にも表れています。そのためにも、今回学んだことに磨きをかけ、日々精進していく所存です。

後輩へのメッセージ

出場件数が多いことから、所属ではここまで集中的に救急に関して学べることはあまりないと思います。それに加え、他市町村との情報交換など、視野が広がる良い機会でもあります。年齢・職歴は関係なく、巡り合えた仲間と多くのことを学び、たくさん失敗もしてください。それが必ず今後の糧となります。

入間東部地区事務組合消防本部　　坂元　祐介　消防士長　＊第２小隊副総代

修了しての感想

まず、専科教官、講師、実技教官の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございます。私は入校時、救急に対する不安と所属を代表し入校する緊張で、手一杯でした。しかし、自分で希望し勉強させていただいたこの３４日間は、驚く程充実していて、新しいことを学ぶ楽しさや、今まで出来なかったことが出来るようになる嬉しさを感じ、自分の救急に対する知識の厚みが増していく毎に、不安が自信へと変化していきました。短い間でしたが貴重な経験をさせていただき、感謝しております。

後輩へのメッセージ

専科教官、講師、実技教官は救急を学ぶ我々学生のために、最高の教育環境を準備して下さっています。学ぶ気持ちを前面に出し、積極的に取り組むことをお勧めいたします。現場経験豊富な救命士の方々の生の声を全身で感じていただけたらと思います。

救急科教育訓練の様子

観察訓練

搬送訓練

口頭展開訓練

産婦人科救急訓練

効果確認

総合シミュレーション